

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503312		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 「生きがい2」		
所在地	札幌市白石区北郷2条4丁目6番12号 電話 011-874-2014		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年5月11日	評価確定日	平成20年5月26日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年6月21日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤16人, 非常勤1人, 常勤換算12人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5階建ての 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費: 22,000円 暖房費(11~3月): 7,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合償却の有無	有(退居時) 無
食材料費	朝食	160円	昼食 380円
	夕食	260円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	7名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 81.7歳	最低 70歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科内科沢口医院 工藤歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「生きがい2」は、JR白石駅から徒歩で5分ほどの北側にあり訪問に便利である。近くには生協や美容院、公園などもあり、生活圏に恵まれた住宅街に位置し、医療法人が経営している病院の3階にある。事業所は開設から3年を経過しており、利用者の生活と健康を保証する安定した暮らしが実現されている。同建物内に法人代表の住居があり、夜間も安心感が得られる環境になっている。法人グループの理学療法士によるリハビリに力を入れることで身体機能の維持向上を図っている。同グループの作業療法士、音楽療法士、ソーシャルワーカーなどの専門職の人的資源を活用し、管理者は楽しい生活を支え、法人の他グループホームとも連携をとり、地域での暮らしを支える試みを職員と一緒に熱心に取り組んでいる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、外部評価で取り上げられたホーム入口には手作りの案内板が掲示されており、金銭管理では明細書を毎月送り、いずれも改善されている。さらに利用者及び家族、地域住民の視点で取り組む予定でいる。今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は各項目について職員間で意見を交換し、それらを管理者がまとめた。課題になった項目については前向きに取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議に自己評価及び外部評価の結果を報告している。会議での意見を参考にし、地域の情報を有意義に生かしている。今後は構成員を見直すため関係者に働きかけ、地域との協力関係を強化する方向でいる。管理者は市・区担当者との関係を築き月に数回は電話で話し合い、書類上や困った時の相談、または緊急を要する入居時の対応など、双方から連絡を取り合い解決している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ホームの「陽だまり通信」は2ヶ月ごとに発行し、行事などの写真を載せ報告している。毎月の金銭明細書を送る際には、手書きのメッセージも入れ、個人の暮らしぶりが分かるように配慮している。管理者は家族とのコミュニケーションを大切にし、要望や苦情があれば職員とも共有し課題を検討している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の人々と支えあう関係作づくりに努めている。「区民祭り」などの催しに参加し、年2回の中学生の実習やボランティアを定期的に受け入れている。「100年会」「長寿会」「ゆうゆうクラブ」などの参加を予定しており、管理者と職員は地域の情報を収集し、地元との交流を積極的に進めているので今後もその姿勢に期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	長文だった理念を職員間で話し合い、簡素化した文言に作り直している。「健やかで 穏やかに 尊厳、愛あるホーム」との分かりやすい表現ではあるが、地域との関係性は明記されていない。	○	地域住民との交流が行われており、地域密着型サービスの表現も加えたいとのことなので、それに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りなどの機会に理念について話し合っている。今回の自己評価を実施する過程で、職員も地域密着の意義を理解し、地域に向けての取り組みを積極的に試みている。	○	事業所、職員全体で理念を実践していくためにも、地域密着の視点について、ミーティングなどの場を設け、さらに深めていくことを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の人々と交流する機会をつくり、「区民祭り」などの催しに参加している。年2回の中学生の実習では食事を一緒に楽しみ、またキーボード演奏者のボランティアを定期的に受け入れるなど、地元との交流を積極的に進めている。	○	子共からお年寄りまでが集まる区民の催し「100年会」に参加の予定をしており、「長寿会」「ゆうゆうクラブ」など、職員も地域の情報を収集し、利用者が住民と交流する機会を計画している。今後もその姿勢に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各項目について職員間で意見を交換し、それらを管理者がまとめた。課題になった項目については前向きに取り組んでいる。前回の外部評価で指摘のあった点は、ほぼ改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に自己評価及び外部評価の結果を報告している。会議での意見を参考にし、地域の情報を有意義に生かしている。今後は構成員を見直し、地域の関係者にも働きかけ、地域との協力関係を強化する方向でいる。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は積極的に事業所の情報を担当者に報告し、いつでも相談できる関係を築いている。月に数回は電話で話し合っており、書類上や困った時の相談、また緊急を要する入居時の対応など、双方から連絡を取り合い解決している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの「陽だまり通信」は2ヶ月ごとに発行し、行事などの写真を載せ報告している。毎月の金銭明細書を送る際には、手書きのメッセージも入れ、個人の暮らしぶりが分かるように配慮している。利用者の状態変化時には些細なことでも連絡し、管理者は家族とのコミュニケーションの機会を多くとり信頼関係に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが活用されていないので訪問時や電話の中で聞くようにしている。苦情などを率直に表明出来ないときは、言葉の端々に伺える家族の思いをくみ取り対応している。要望や苦情があれば職員とも共有し課題を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は法人間の異動を最小限に抑えるように努めている。利用者には職員の離職や異動が理解ができる時には挨拶をし、また、尋ねる時にはきちんと説明するなど個人の状態に応じ、寂しい思いや不安に配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修の情報を提供し、管理者が必要に応じて職員の研修に役立てている。札幌市主催の「認知症対応実践研修、リーダー研修」は業務扱いで受講し、報告書を閲覧できるようにしている。管理者は身体拘束の内容や虐待防止法、救命救急法、地域福祉権利擁護事業、成年後見制度などの知識を仕事に生かせるように学習を進めている。	○	職員育成のため、外部、内部研修を含めての段階に応じた年間計画を考えたいとのことなので、より、充実した認知症ケアの取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市と区の「グループホーム連絡協議会」主催の研修会には、管理者が積極的に参加し情報や交流を得ている。職員は内容を選び、民間主催の勉強会に参加したり、他グループホームの見学や交流をしたりなど、個人的なレベルになっているが、今後は管理者研修の機会に職員も参加の予定でいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急に入居する利用者もいるが、基本的には本人、家族の見学をすすめ納得して入居できるように対応している。入居後、不安定な時には家族の協力や職員が添い寝するなどのスキップをしたり、外に出たりしてホームの生活に馴染むように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として学ぶことが多い。お礼の言葉や礼儀正しい挨拶の姿勢、優しさなど、利用者の態度を通して人としての基本的なことを学んでいる。手作り納豆を教えてもらい、歌詞を教わりながら一緒に歌い、折り紙や編み物を楽しみ、共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動から、「なぜなのか」その理由をさぐる視点を大切にしている。生活歴や家族の情報を参考に、本人本位に過ごしてもらう中で、その思いを職員間で情報交換し意向を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成するに当たっては、情報収集とその分析のために「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用している。センター方式のシートを使い家族に記入してもらったり、職員が本人や家族に質問することで課題を把握することに努めている。介護支援専門員が介護計画の原案を作成し職員と検討、修正を行い家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回、及び心身の状態に変化が生じた場合には介護計画の見直しを行っている。その際には、利用者の担当職員との検討内容や家族の要望、個別の記録を基に本人の希望に沿って現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人内に介護老人保健施設、整形外科内科があり、理学療法士によるリハビリに力を入れることで身体機能の維持向上を図っている。受診時には介護タクシーを利用し家族と連携し通院の介助を行ったり、友人との外出や家族の家に外泊ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って脳神経外科やかかりつけ医の受診が継続できるように、地域の医療機関と連携を図っている。同一の建物内の1階に協力医療機関があるので屋内を移動することで受診できることが家族の安心につながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の早い段階から家族と重度化した場合や終末期のあり方について話し合いを行っている。訪問看護師、かかりつけ医、協力医療機関の医師、家族、職員との話し合いを繰り返すことでケアの方針を共有しターミナルケアを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して「人生の先輩である」という認識を持ち、命令や指示をするような言葉かけにならないように配慮している。排泄などで失敗することがあっても、本人の誇りを回復できるように対応している。個人情報に関する記録物は事務所に保管しプライバシーを確保している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを尊重している。夕食後に就寝の準備を始め18時半には休む、あるいはラジオやテレビを視聴し21時頃に休むなどの生活習慣を継続することができるよう支援している。また、職員が「なぜ？ どうして？」と考えることで本人の気持ちを把握することができるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は委託業者が作成しているが、アレンジすることで利用者の希望を反映している。長年、朝食はパンを食べていたという利用者にはパンを用意している。また、海苔や味噌汁のだし用の昆布を切る、料理の味見をする、盛り付けをする、食器を下げるなど本人ができることを支援し、職員が同じテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から土曜日の午後に入浴の時間を設けているので、「一番風呂に入りたい、違う日に入りたい、この人と一緒に入りたい」などの一人ひとりの希望を尊重している。入浴を拒む利用者には、どのような言葉かけが適切なのかを考え、また相性の良い職員が対応することで入浴を楽しむことができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や職歴を把握することで、食事の盛り付けや食器拭き観葉植物の水やりなどの役割のある生活を支援し、その都度感謝の言葉を伝えている。食事時には、動作の不安定な利用者の様子を心配し、言葉をかける利用者もいる。ラウンジにピアノがあり、ボランティアや職員が演奏している。2階の医院の病棟にあるベランダを借りて園芸をする予定である。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者がフリーの勤務体制をとっているため、近隣のスーパーや薬局、銀行、公園などに外出できるように努めている。また、家族の協力を得て日常的な外出の支援を行っている。介護度が重い利用者は、外出後の疲労感の訴えもあり課題として受け止めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼夜を通して施錠している。同一建物の1,2階が協力医療機関、3階がグループホームとなっている。不審者の出入りを防ぐために1階の玄関はオートロック式で面会者は、インターホンを使い職員が開錠している。3階のユニットの出入り口のドアは施錠している。	○	鍵をかけることから生じる心理的圧迫感などの弊害を防ぎ、段階的にユニットの出入り口のドアを開錠することで、3階から1階の建物内の出入りがしやすくなるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや連絡網を作成し、消防署の指導を受け年に1回昼間を想定して職員、利用者が参加し避難訓練を行っている。	○	自治会や運営推進会議に協力を呼びかけ、地域住民の参加を得て避難訓練を実施することができるよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は委託業者の管理栄養士が作成している。食事や水分の摂取状況は一人ひとり個別に記録し職員で共有している。食事に時間がかかる利用者には、励ましの言葉をかけることで自分で食べることができるよう支援している。摂取量が少ない場合はエンシュアリキッドなどで補給している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングには、食事用の大きなテーブルが2つ、ゆったりとしたソファとテレビ、座ったり横になったりすることができる畳敷きの小上がりがあり、大きな窓から柔らかな日差しが差し込んでいる。壁面には写真や手芸品、折り紙などを展示しており、棚には使いやすいようにトランプやかるた、本などを収納している。個室の喫煙室を設けることで共有の空間への配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年、使用してきたベットや仏壇、観葉植物の鉢など馴染みのあるものを身近に置くことで居心地の良い居室作りを支援している。私物の少ない利用者には、本人や家族と相談し職員が居室の環境を整えている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。